



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：モッタキ外相の「中東和平」発言とアラブ側の反応 (5月21日付現地紙)

1. 5月18-20日にヨルダンの死海で開催された世界経済フォーラムでのモッタキ外相の発言：「サウジアラビアから提起されているアラブ和平提案は、イスラエルが和平協定を結ぶ意向を持っていないことから、問題に直面する。イランの目的は、中東での諸危機の解決に資することである。レバノン政府、イラク政府及びアフガニスタン政府と関係を持つイランは、常に地域内の問題解決の道の一部である。過去30年間、130の提案がなされたが、イスラエル体制の戦略により、どれも正式に認められていない。アラブ和平イニシアティブが成功するとは思えない。なぜなら、この計画はパレスチナの首都や500万人のパレスチナ難民の帰還に関する権利などの運命的問題に言及していないからである。」
2. このモッタキ外相の発言に対し、サウジアラビアのトルキイ・ファイサル前駐米大使が、「イスラエル・パレスチナ和平計画はイランには関係がない。これはアラブの問題であり、アラブにより解決されるべきである」と述べるなど、アラブ諸国側から厳しい非難が行われた。
3. 一方で、同フォーラムの傍らでは、モハンマド・ラリジャニ司法権顧問（注：ラリジャニ SNSC 書記の実兄）がエラカート PLO 交渉局長と会談し、エラカート局長はラリジャニ顧問にアラブ和平イニシアティブを説明、「ラリジャニ顧問は、イランはアラブ和平イニシアティブの実施過程で阻害することはなく、同提案に反対ではないと述べた」と語った。
4. モッタキ外相は19日、同フォーラムで「如何なる国も世界地図から抹消することは出来ない」と発言した。この発言に関して記者団よりアフマディネジャード大統領との立場の違いを指摘されたことについて、モッタキ外相は20日 IRNA とのインタビューで、「自分が意図したのは、イスラエルのことではなく、パレスチナである。パレスチナ国民は地図から抹消され得るものではないことは小学生でも知っている」とフォーラムで述べた」と語った。